

第 31 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：令和 2 年 7 月 7 日（火） 13：30～15：30

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

1. 廃炉中長期実行プラン 2020 概要説明について

東京電力から、廃炉中長期実行プラン 2020 の概要について説明した。

2. 2 号機試験的取り出し装置(アーム)、準備状況の動画について

IRID から、2 号機試験的取り出し装置(アーム)に関する準備状況を動画を用いて説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- アーム型アクセス装置で想定される故障モードや保守作業を予め整理し、除染しやすい構造やモジュール化を図るなどの改善を、継続的に検討することが望ましい。
- ホットラボ作業経験者の視点やノウハウを、アクセス装置やツールの設計、運転手順の検討に取り込むことを念頭に、準備を進めることが重要である。

3. 東京電力におけるエンジニアリングの状況について

東京電力からエンジニアリングの状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- ソースタームが建屋外へ放出される可能性のあるシナリオを網羅的に整理し、その上で発生頻度を抑えるための設備対策と合わせて、安全が確保されることを体系立てて示していくことが重要である。また、判断基準の設定については、値の根拠をより明確化するとともに、目的に照らして適切な用語を用いることを検討すべきである。
- 試料分析等によるデータの拡充においては、今後の燃料デブリ取り出しや施設の維持等の他分野の取り組みへの活用も意識し、幅広い視点で分析項目等を検討することが重要である。

4. 戦略プラン 2020 概要版(案)の紹介について

NDF から、戦略プラン 2020 概要版(案)の紹介について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 大きな不確かさが内在する等の 1F 廃炉の特殊性を踏まえると、先行的情報の取得と後段での活用により安全を確保しつつ、廃炉作業を推し進める取り組みは評価できる。この安全確保の取り組みは比較的短い周期でプロセスを回すことで有効に機能するため、進め方等について事前に関係各所と調整しておくことが重要である。
- 戦略プラン 2020 の作成においては、これまでの論点を踏まえつつ、研究開発及びエンジニアリングの進捗状況（アーム型アクセス装置のモックアップによる検証の重要性等）を盛り込んでいくことが肝要である。

以上